

北海道職員 社会福祉職（A・C区分） 受験のご案内

心理学や教育学を学んだ知識、社会福祉施設等での勤務経験
「北海道職員」で活かしませんか？



◆◆ 社会福祉職について ◆◆

主な業務内容

- 子ども、障がい者、高齢者や生活保護を必要とする方などを対象とした福祉分野において、対人援助業務を行う等、さまざまな福祉行政の運営に携わります。

(主な職場)

- 児童相談所（8カ所2分室）
- 児童自立支援施設（2カ所）
- 福祉事務所（振興局社会福祉課14カ所）など



- 様々な実践と経験を積み、将来的には福祉専門機関や福祉行政職場の管理職をめざします。

求められる資質・能力

- 大学において、心理学、教育学、社会学等を専修する学科を修めて卒業した方
- 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の資格を有する方
- 社会福祉施設、相談支援事業所、病院、学校等において、一定の職務経験がある方

◆ 児童相談所での勤務 ◆

主な業務内容

- 子どもの福祉に関する相談援助業務（相談・調査・アセスメント・支援）
- 要保護児童に対する保護措置、自立支援
- 子ども家庭相談についての地域支援

児童相談所の所在地

- 中央児童相談所
- 旭川児童相談所
- 旭川児童相談所稚内分室
- 帯広児童相談所
- 釧路児童相談所
- 函館児童相談所
- 北見児童相談所
- 岩見沢児童相談所
- 室蘭児童相談所
- 室蘭児童相談所苫小牧分室



◆ 福祉事務所(社会福祉課)での勤務 ◆

主な業務内容

- 生活保護を必要とする方の相談援助業務
- 介護保険、社会福祉事業等の運営指導
- 地域福祉関係事業など

福祉事務所の所在地

- 空知総合振興局（岩見沢市）
- 石狩振興局（札幌市）
- 後志総合振興局（倶知安町）
- 胆振総合振興局（室蘭市）
- 日高振興局（浦河町）
- 渡島総合振興局（函館市）
- 檜山振興局（江差町）
- 上川総合振興局（旭川市）
- 留萌振興局（留萌市）
- 宗谷総合振興局（稚内市）
- オホーツク総合振興局（網走市）
- 十勝総合振興局（帯広市）
- 釧路総合振興局（釧路市）
- 根室振興局（根室市）



◆ 児童自立支援施設での勤務 ◆

行動上の問題（不良行為など）を有する子どもや家庭環境上の問題により、生活指導を必要とする子どもに、施設入所による支援（生活、心理、教育等の観点から総合的な支援）を実施

児童自立支援施設の所在地

- 向陽学院（女子児童対象）・・・北広島市
- 大沼学園（男子児童対象）・・・七飯町

給与・勤務条件等

- ※初任給 A区分：大学新卒（185,200円）
C区分：民間経験（前職経験等により決定）
- 諸手当 期末手当、勤勉手当、通勤手当、住居手当、扶養手当、寒冷地手当など
- 年休 1年間に20日間（4/1採用の年は15日間）
- 住宅 職員住宅、独身寮が整備されています。
- ※初任給等は令和5年度時点

社会福祉職採用職員へインタビュー！

児童相談所

●業務内容●

北海道北見児童相談所で5年間判定員として勤務した後、現在は北海道中央児童相談所で児童福祉司として勤務しています。

業務内容は、主に保護者や児童、その親族の方と面接をしたり、関係機関(市町村や学校、児童福祉施設、病院、警察等)と連絡を取り合ったりしながら、相談者の困り事解消に向けたケースワークをすることです。

自分の予定と照らし合わせて、相談や訪問の日時を決めることができます。

●社会福祉職員になったきっかけ●

私は大学で教育や心理学を専門に学びました。人事課が作成した社会福祉職を募集するメールを教授経由で見て興味を持ったのがきっかけです。一般行政職に比べて、自分が学んできたことを活かせる可能性が高いと考えて受験しました。

●やりがい●

相談を重ねていくとその家の問題が見えてくるので、それに対して助言や指導を行います。問題が見えない場合は「なぜ見えないのか」を考えます。「なぜ」「どうして」を自分の中で繰り返し、問題を分析します。事前の準備や問題の分析には精一杯の努力をします。

その努力が実を結び、私の行動で相談者の困り事が解消された時にはやりがいを感じることができます。

●外から見ていた道庁のイメージと実際の違い●

入庁前、北海道は市町村対応、市町村は住民対応といったイメージがありました。実際には住民の方と直接やりとりをする場面が非常に多いです。

また、公務員は事務室でパソコン作業をしている時間が多いイメージもありました。実際には家庭訪問や機関訪問などの外勤や出張も多いです。

●印象に残っている出来事●

児童相談所に来る相談は保護者が困り果てている、または虐待のように相談意思が乏しい場合も少なくありません。私たちに問題を打ち明けることは相談者自らが問題に向き合うこと(時にそれは「痛み」を伴うこと)を意味します。

そうした辛い作業を経ても、最後に「ありがとうございました」「次回も担当してほしい」等の言葉が返ってくると、この仕事をしていて良かったなと思います。

●育児をしながら働く判定職員から●

(中央児童相談所子ども支援課判定係 秋葉 亜沙香)

業種によるとは思いますが、福祉分野は女性職員が多いです。

そのため、女性管理職も多く、女性にとっては具体的なキャリアプランがイメージしやすいかと思います。現在、育児のための時短勤務で働いています。

管轄区域が広いため、宿泊を伴う出張もありますが、育児等の事情に応じて業務時間内で働けるよう配慮していただけています。

業績評価についても、時短勤務等は関係なく、個人の業績に応じた正当な評価をしてもらっていると感じます。



平成27年度入庁
北海道中央児童相談所
子ども支援課

永井 宏夢

●ある1日のスケジュール●

- 8:45 出勤、メールや書類の確認
- 9:00 ケース記録の整理、会議資料の作成、訪問の準備
- 12:00 昼食
- 13:00 家庭訪問
- 15:00 学校訪問
- 17:00 明日以降の準備
- 17:30 退庁

●これから入庁する後輩へメッセージ●

私は就職後に上司から色々と教わり、自ら実践するなかで仕事を憶えました。実際に働いてみないとわからないことはたくさんあります。

今回書かせていただいた文章が少しでも皆様の入庁のきっかけや参考になると嬉しいです。



●業務内容●

私が所属する児童相談係は、全道各地にある8児童相談所2分室に関して、私は主に、児童相談所の業務状況を確認する監査業務、児童相談所で子どもの情報を管理するために使用しているシステムの改修業務、児童相談所で取り扱った相談件数についてとりまとめる統計業務などを担当しています。

以前は、児童相談所の判定員として子どもに直接支援をする業務をしていましたが、本庁での勤務は、全道の児童相談所の実情を客観的に把握できるようになるため、視野が広がります。

●やりがい●

今は子ども達と関わることはないですが、仕事を通して子ども達の支援に繋がっていると感じています。直接支援することももちろん大事ですが、児童相談所の体制や環境を整えることも、子ども達へのよりよい支援に繋がっていくことと考えています。

児童相談所で勤務をしていた職員として、意見や現場の肌感覚を聞かれることもあるため、経験したことを活かすことができるのは嬉しく思います。

経験を積んでいくと、初めて北海道で取り入れる事業に関われることもあります。たくさん考えなければいけないことはありますが、一から関われる機会は本庁でなければ経験ができないことですし、事業として形となったとき、やりがいや喜びを感じられると思います。

●外から見ていた道庁のイメージと実際の違い●

最初のイメージは、道庁(公務員)と聞くとデスクワークが中心で事務作業を淡々と言う印象を持っていましたが、アイデアが必要になることやイメージを働かせないといけない場面も多々あり、クリエイティブさや柔軟な思考も必要だと感じました。

また、札幌駅に向いて児童虐待防止の広報活動をしたり、各地の児童相談所に向くこともあるので、外に出る機会ももちろんあります。

本庁にはコンビニや銀行、食堂があり、少し歩けばご飯屋さんにも近くにあるため、お昼休みに外へ出てリフレッシュできます。

●印象に残っている出来事●

他都府県の取組を把握するため、全国の自治体担当者から話を聞くことがありますが、担当者同士の繋がりができ、お互いの事情についても情報交換ができるため、新たな発見がありおもしろいです。

予算確保に向けた業務は本庁ならではのことであり、係一丸となって取組みます。法律や政省令なども網羅しなければならず、勉強の日々ですが、深く知ることができるため知識としてプラスになっています。

●上司・同僚との関係や職場の雰囲気●

分からないことを気軽に聞けたり、先輩からのアドバイスもあります。上司も時間をとって丁寧なアドバイスをくれるため、安心して業務を遂行することができます。

また、他部署には同期もいるためとても心強く、時間が合うときは食堂の地下1階に集まり、昼食をとっています。



平成29年度入庁
北海道保健福祉部子ども政策局
子ども家庭支援課

佐藤 さくら

●社会福祉職員になったきっかけ●

もともと困っている人を支援する仕事に就きたいと考えていましたが、福祉分野は多岐に渡るため、児童・高齢・障がいなどの様々な福祉分野を経験できる北海道庁の社会福祉職に魅力を感じました。

福利厚生の実施など働きやすい環境であるのもきっかけとなった一つです。

●ある1日のスケジュール●

在宅勤務をするときもあります。

- 8:45 メールの確認
- 9:30 児童相談所と打ち合わせ
- 10:30 電話やメールの返信
- 12:00 昼食
- 14:30 会議の準備
- 15:30 会議
- 17:00 事務処理
- 17:30 退庁

●これから入庁する後輩へメッセージ●

道庁の福祉分野では働きたいけど、自分に合った分野が分からない、やりたい福祉分野が決められないという方には、とても良い職場だと思います。児童相談所などの出先機関での勤務になれば研修なども充実しているため、福祉の専門性も高められますよ！

皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

児童自立支援施設

●業務内容●

子どもたちが施設生活を送るなかで直面する様々な課題や困難を、子どもたちと共に考え、乗り越える手助けをしています。

具体的には、分校の授業補助を含む学習支援や、寮内外の環境整備について指導等を行っています。また、寮生活で児童間の諍い等のトラブルが起こった時には、原因を把握するため、お互いの話を良く聞き、指導や振り返りを行っています。

日常生活の様々な場面を生かし、子どもたち一人ひとりの個性に応じて、課題解決に向けた支援を行うことが、私たちの主な業務です。

●社会福祉職員になったきっかけ●

大学院で学んだ心理臨床への関心と、当時非常勤職員として勤務していた児童相談所での経験が、今につながっています。

特に児童相談所では、様々な背景から家庭での生活が困難になってしまった子どもたちとの出会いがありました。その経験が、「自分にも何か出来ることがあるかもしれない」と社会福祉の道へ進むきっかけになりました。



令和元年度入庁
大沼学園
自立支援課

奥田 寛崇

●やりがい●

子どもたちと信頼関係を構築して、「通じ合えた！」と思える瞬間が、何よりのやりがいです。学園祭や卒業式等で子どもたちの成長した姿を目の当たりにしたときには、大きな感動があります。また、そうしたイベントではなくても、ずいぶん前に話した自分の言葉を子どもたちが覚えていたり、こちらから声かけをする前に手伝いをしてくれたりといった、本当に些細な何気ないエピソードが、やりがいを与えてくれます。意外に思われるかもしれませんが、こうした日常の生活場面のなかに、自分と子どもたちのつながりが浮かび上がる瞬間があるのです。

本当の意味で、児童自立支援施設での支援の結果が見えてくるのは、今いる子どもたちが大人になる「ずっと先の未来」です。今はそのときを楽しみに待ちながら、未来に向けて種を蒔いています。

●外から見ていた道庁のイメージと実際の違い●

以前は「公務員」と聞くと、スーツを着て、淡々とパソコンに向き合っているというイメージがありました。しかし、実際に大沼学園で勤務してみると、スーツを着る機会は少なく、動きやすいジャージや作業服を着ていることがほとんどです。もちろん、パソコンを使った事務はありますが、ほとんどの時間は、子どもたちに直接関わって、一緒に過ごしています。入庁前の先入観と異なり、温かい血の通った仕事をしているのだと日々実感しています。

●印象に残っている出来事●

初めて担当した子どもとの関わりが、特に印象に残っています。出会った当初、彼は頻繁に不定愁訴を訴えたり、他の子と些細なことで険悪になったり、大人に反発したりと、対人面で困難を抱えていました。

大沼学園での1年目は、そんな彼との関わりが全てだったと言えるほど、毎日一緒に生活しながら、何度も何度も言葉を交わして過ごしました。もちろん、強く反発されたり、自分自身の関わり方を反省することもたくさんありました。それでも、学園や分校の職員の協力もあり、彼自身が自分の課題を少しずつ克服して、最後には笑顔で退園する姿を見送ることができました。

今、彼は家に戻り、自分の足で人生を歩んでいます。

●上司・同僚との関係や職場の雰囲気●

大沼学園では交替制*を導入したこともあり、現在は若手職員が非常に多い職場になっています。一方、大沼学園の長い歴史を知っているベテラン職員も在籍しています。経験豊富なベテランからの確かな指導・助言をもらえる環境があり、若手でも、安心して子どもたちと関わり、支援することができます。また、上司からの適切なスーパーバイズも得ることができるため、適切な寮運営に結びついていると思います。

*交替制・・・1つの寮を複数の職員が交替で担当すること

●ある1日のスケジュール●

- 8:30 打ち合わせ(前日の様子など)
- 8:55 分校授業へのチームティーチングによる授業参加
- 10:45 職員会議
- 12:30 昼食
- 13:30 事務作業
- 16:00 クラブ活動(小学生クラブ)
- 17:00 打ち合わせ(分校・クラブでの様子など)
- 17:15 退庁

●これから入庁する後輩へメッセージ●

社会福祉の仕事は、対人関係が前提にあります。それゆえに直面する困難もたくさんありますが、誰かとわかりあうこと・つながることの素晴らしさを肌で感じるすることができます。そして、「誰かの『幸せ』をみんなで一緒に考える」という、何よりも大きな魅力があります。

みなさんも、私たちと一緒に、この魅力ある仕事に携わってみませんか？

児童自立支援施設

●業務内容●

児童自立支援施設の児童は、不登校やネットへ依存などの様々な課題を抱えて入所します。

寮での生活、分校での学校授業、本館での作業や行事体験を通して、子ども達と同じ時間を過ごしながら支援を行います。子ども達が抱える課題を解決し、それぞれの子どもにあった自立につなげていくことが業務の基本です。

具体的には、①生活に対する助言などの生活支援、②行事の企画と実施、③入退所に関連した事務など様々な業務があります。

この他に、寮舎での当直業務(月1~2回程度)などの寮舎の運営に関する業務がありますが夜間の子どもたちの様子がわかる機会ともなっています。



●社会福祉職員になったきっかけ●

これまで、児童福祉の分野に携わってきましたが、児童福祉のみならず、様々な福祉の分野を経験したいと思い、道庁の社会福祉職員を希望しました。

また、福利厚生や研修制度が充実していることにも魅力を感じ、安心して働くことができると思ったこともきっかけの一つです。

令和2年度入庁

向陽学院
自立支援課

小嶋 千絵

●上司・同僚との関係や職場の雰囲気●

子どもとの直接的な関わりに悩むことは多いですが、すぐに相談できる職場環境で、一人で悩みを抱えることなく働くことが出来ています。

先輩たちは、様々な福祉の分野に関わってきた方ばかりなので、向陽学院での自分の役割や子どもとの関わりについて、幅広い視点を持ってアドバイスをくださいます。

また、仕事だけではなく、家庭や育児等を両立しながら働いている上司や先輩もいるので、自分らしく働けるようなワークライフバランスを考えていきたいと思えます。

●やりがい●

子どもたちの良い変化に気がつき、成長を見届けられることだと思います。

入所当初は大人を警戒して反抗しているような子もいますが、学院の生活を過ごす中で、できることやわかることが少しずつ増えて自信が付き、大人と話す経験が増えることで少しずつ相談ができるようになることがあります。そのような子どもたちの良い変化を見つげられることがこの仕事の魅力です。

また、子どもたちと一緒に過ごす中では、子どもたちから笑顔にさせてもらう場面も数多くあり、何気ない普段の関わりが仕事のやりがいに繋がることもあります。

●ある1日のスケジュール●

- 8:15 出勤、業務開始、係打合せ
- 8:35 全体打合せ(当直者からの引継など)
- 8:45~ 授業支援、個別支援など
- 12:30 昼食支援
- 13:00 昼休み
(体育館や音楽室で子どもたちと一緒に過ごす)
- 13:30~ 環境整備業務や分校での部活動に参加
小学生とは工作や運動をして一緒に遊ぶ
その後、児童の様子についての記録の整理、分校との引継などを行う
- 17:00 退勤

●印象に残っている出来事●

児童自立支援施設では作業支援が印象的です。春には畑の土を耕すところから始まり、夏の暑い日には汗を流しながら種まきや雑草抜きを行います。秋には畑で収穫した作物を皆で頂き、畑のシーズンが終わると環境整備として院内の落ち葉掃きを行います。冬になると除雪作業が始まり、大きな雪山をスコップで一杯に崩し、スノーダンプに雪をのせて雪捨て場まで運びます。

体力がまだ十分でない子どもたちが、作業を通して段々とたくましくなっていく姿を見ると感動するものがあります。

●外から見ていた道庁のイメージと実際の違い●

公務員と聞くと、事務仕事の多さや堅い雰囲気の職場をイメージしがちでしたが、実際は、子どもと直接関わる向陽学院のように、道民と直接関わりながら働く職場もあり、優しく温かい雰囲気の職場でした。

想像していた以上に、幅広い分野の職種があることに驚きました。

●これから入庁する後輩へメッセージ●

道庁社会福祉職には様々な職種があり、向陽学院のような子どもと直接関われるような業務もあれば、デスクワークを中心とする業務もあるため、自分の得意分野や強みを活かした職場を選ぶことができます。

ぜひ、働きながら自分の新たな強みを見つけ、自分に合った働き方を探してみませんか？

振興局社会福祉課

●業務内容●

福祉事務所で生活保護業務を担当しています。転居や葬祭など世帯の変動に合わせ、臨時的に支給される一時扶助の支給判断や、被保護世帯への家庭訪問を行っています。金銭の支給だけでなく、通院状況や介護サービスの利用状況、就労状況など各世帯のことを詳しく把握する必要があります。生活状況や病状を踏まえ、どのような支援が世帯に相応しいのか模索しながらケースワークを行っています。

●社会福祉職員になったきっかけ●

私が社会福祉職員を目指した理由は、大学で専攻していた心理学を活かし、問題に介入し支援することで困っている方を支えたいと思ったからです。また、大学では児童発達支援事業所で実習を経験し、これまで学んだことを活かしたいという気持ちがより強くなり、社会福祉職員を目指しました。



令和3年度入庁
渡島総合振興局保健環境部社会福祉課

小倉 阿稀

●やりがい●

担当する世帯の現状を役場等の関係機関に連絡し、連携を図ることで個人に合った介護サービスや医療サービスにつなげることができたことです。病状の悪化が気にかかる方がいたため、きちんと病院を受診するよう助言しましたがなかなか受診せず困っていましたが、役場の保健師さんに情報提供し、かけあってもらった結果無事に病院を受診することができました。今では病状に合った服薬もしているようで、体調も安定しているようです。

●外から見ていた道庁のイメージと実際の違い●

元々、福祉職は住民の方と関わる機会が多いイメージでしたが、実際には想像以上にその機会が多いです。また、公務員ということもあり堅い雰囲気イメージがありましたがそんなことはなく、気軽に相談や質問ができる職場だと感じています。

●印象に残っている出来事●

被保護世帯へ訪問調査を行っていますが、家族や近隣住民とは関わりが無い方から、「訪問に来てくれるのを待っていた、また来るのを待っています」と言われたことです。生活保護費についてのお金のことのみではなく、個人としっかり関わり、時には話し相手になることも被保護者と直接対面するケースワーカーにできる仕事のひとつなのではないかなと感じました。

●ある1日のスケジュール●

8:45 出勤、移動
10:00 家庭訪問
12:00 昼食
13:00 家庭訪問
15:30 移動
17:00 帰庁、メール、書類整理、
関係機関との情報共有
17:30 退庁

●上司・同僚との関係や職場の雰囲気●

若い職員は多くありませんが、わからないことがあれば気軽に質問できる環境にあります。私には同じ職場に同期の職員はいませんが、係長や長くケースワーカーをやっている職員の方に相談しています。ケースワーカーの業務の大半は自分のペースで進めることができるため、休暇も取りやすい雰囲気があると感じています。

●これから入庁する後輩へメッセージ●

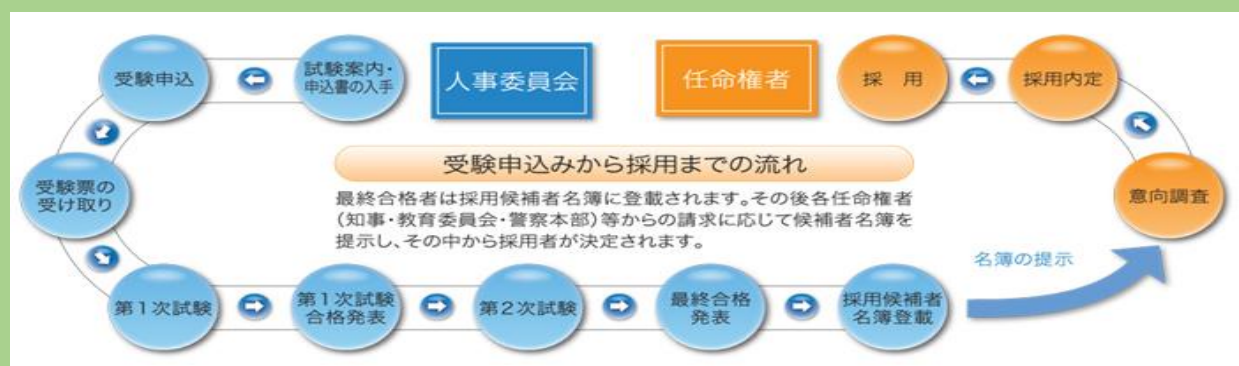
福祉の専門知識が必要とされる職場ということもあり、初めて福祉の職場で働く方にとってはわからないことがほとんどだと思いますが、周りの方に頼りつつ、自分の経験を通して学んでいける環境です。みなさんと北海道職員として一緒に働ける日を楽しみにしています。

社会福祉職受験について

★★ 試験種目等(社会福祉A・C) ★★

| | A区分(年2回実施) | | C区分 |
|-------|---|-------|--|
| 第1次試験 | 【職務基礎力試験(択一式)】 ○ 社会事情・言語能力分野 ○ 数的・論理的能力分野 【専門試験(択一式)】 ○ 社会福祉概論(社会保障含む)、社会学概論、社会心理学、一般心理学、社会調査 【適性検査】 | 第1次試験 | 【専門試験(択一式)】 ○ 児童の権利と福祉、相談援助技術、児童虐待、児童心理、社会的養護、福祉一般 【適性検査】 |
| 第2次試験 | 【人物試験】 ○ 個別面接(プレゼン要素含む) | 第2次試験 | 【人物試験】 ○ 個別面接 |

★★ 主な採用までの流れ ★★



インターネット

北海道人事委員会のホームページから入手できます

北海道職員等採用情報

検索



電話

北海道保健福祉部の仕事や北海道職員採用試験についてのお問い合わせは

- 保健福祉部の仕事に関すること
北海道保健福祉部総務課人事係
札幌市中央区北3条西6丁目 道庁本館6階
Tel: 011-231-4111 (内線25-103)
- 職員採用試験に関すること
北海道人事委員会事務局任用課
札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館11階
Tel: 011-204-5654 (直通)

